

因幡の白兔「いなばの白うさぎ」 あらすじと教訓とは（古事記神話）

「いなばの白うさぎ」らすじ

「いなばの白うさぎ」のあらすじ・作者・登場人物をかくにんしよう。

作者（さくしゃ）について

「いなばの白うさぎ」は、むかし話ができる ずっと前から、日本の人の間で 言いつたえられてきた お話の一つで、「神話（しんわ）」と よばれているよ。

この神話などが 今から 1300年くらい前に 『古事記（こじき）』という 日本で 一番古い れきし書（これまでにおきた 大きなできごとやまわりに 大きなえいきょうを あたえた人などについて 書かれたもの）に まとめられたんだ。

『古事記（こじき）』に 書かれていた お話を もとにして、子どもたちに わかりやすいよう、なかがわ りえこ さんが かきなおしたのが 教科書にのっている「いなばの白うさぎ」のお話だよ。

なかがわ りえこさんは、小学1年生の国語で 学習した『くじらぐも』の作者だよ。

ほかにも、『ぐりとくら』の絵本や 『となりのトトロ』の主だい歌『さんぽ』の歌詞かしも なかがわ りえこさんの さくひんだね。



登場人物（とうじょうじんぶつ）

【オオクニヌシ】

このお話の しゅ人公。

八十人もの かみさまの 兄弟の すえっ子。

あらそうことが すきではなくて 兄さんたちから ばかにされていたよ。

【八十人もの かみさまの 兄弟きょうだい（兄さんたち）】

オオクニヌシの 兄さんたち。自分が 国を おさめるのに ふさわしい人物だと いつも 力を きそい合っていたよ。

【うさぎ】

八十人もの かみさまの兄弟が いなばの国へ むかうとちゅうで たおれていた うさぎ。

兄さんたちに からかわれ、オオクニヌシには たすけられたよ。

【わに】

さめのこと。うさぎに だまされたことを 知ると うさぎに かみついたよ。

あらすじ

いなばの白うさぎ

文：なかがわ りえこ

いずもの国に 八十人もの かみさまの兄弟が いました。

兄さんたちは 自分が 国を おさめるのに ふさわしいと きそい合っていました。あらそいごとが すきではない すえっ子の オオクニヌシは、兄さんたちから ばかにされていました。



おひめさまに けっこんをもうしこむため、八十人もの かみさまの 兄弟は いなばの国へ おかいました。

たびの とちゅうで、たおれているうさぎを 見つけた 兄さんたちは、うさぎのけがが さらに わるくなるような アドバイスをしました。

兄さんたちの アドバイスのせいで ますます けがが ひどくなった うさぎが いないと、オオクニヌシが 声をかけました。

すると、うさぎは 「わにをだまして おきのしまから けたのみさきへ行こうとしたこと」、「けたのみさきへ とうちゃくするところで わにをだましたことを 言ってしまったところ、おこったわにに 毛をむしりとられたこと」、「かみさまたちのアドバイスのとおりにしたら、けがが ひどくなったこと」を 話しました。

オオクニヌシは、うさぎのけがが よくなるよう アドバイスしました。

すると うさぎのけがは すっかりなおり、白うさぎにもどりました。

それからというもの、オオクニヌシの すばらしさが 世に知れわたりました。

「いなばの白うさぎ」内容とポイント

「いなばの白うさぎ」の 場面分けごとに、内容とポイントを かくにんしよう。

場面は、「場しょ」や「登場人物」、「時間」などが かわったところをヒントにして かんがえるといいよ。

(「いなばの白うさぎ」の場面分けは、先生や学校によって かわる かのうせいが あるよ。)

登場人物の セリフや こうどうから、「登場人物が どんな気もちだったか」を かんがえてみよう。



だいの 場めん 八十人もの かみさまの兄弟と オオクニヌシ の しょうかい

だいの 場めんは、「むかし、むかし、大むかし。」から「しごとを 言
いつけては こきつかいました。」まで。

【時間】むかし、むかし、大むかし

【場しょ】いづもの国

【登場人物】八十人もの かみさまの 兄弟・オオクニヌシ

【ないよう】いづもの国に 八十人もの かみさまの 兄弟が いたよ。
兄さんたちは あらそいごとが すきではない すえっ子のオオクニヌシを
バカにしていたよ。

だいのばめんでは、八十人もの かみさまの 兄弟や オオクニヌシにつ
いて しょうかいされているよ。

八十人もの かみさまの 兄弟が いたところは いづもの国だね。

いづもの国とは、どこのことか わかるかな？

「いづもの国」は、むかしの国の よびかたの 一つだね。
場しょは、今の 島根県の東がわ（海の近く）と 考えられているよ。

八十人もの かみさまの兄弟が どんな人たちだったかという、たがいに
力をきそい合っていたよ。
なぜかという、自分こそ、国をおさめるのにふさわしいと 考えていたか
らだね。

つまり、八十人もの かみさまの 兄弟は、それぞれ「自分が 一番りっぱ
だ」「自分こそが 一番すばらしい」と思い、国のリーダーとして えらく
なりたいたと 思っていたんじゃないかな。



でも、すえっこの オオクニヌシは 兄さんたちとは ちがったね。
どんなところが ちがうかという、あらそうことが すきではなかったんだね。

人とくらべたり、かちまけを きめたりするのは いやだったんだね。

兄さんたちは、オオクニヌシを いくじなしとわらい、こきつかったよ。
なぜかという「きょうそう しようもしない オオクニヌシは ゆうきがない」と、バカにして 自分たちよりも 下に見ていたんだね。

だい二の 場めん 兄さんたちが たおれている うさぎを からかう

だい二の 場めんは、「さて、ある日」から「話しはじめました。」まで。

【時間】ある日

【場しょ】いずもの国 → いなばの国へ

【登場人物】八十人もの かみさまの 兄弟（兄さんたち）・オオクニヌシ・うさぎ

【ないよう】いなばの国へ むかうとちゅう、兄さんたちは たおれたうさぎを 見つけて からかったよ。

オオクニヌシは うさぎにやさしく 話しかけたよ。

兄さんたちが うさぎに うそのアドバイスを する
兄さんたちと オオクニヌシは、いずもの国から いなばの国へと 出かけたよ。

「いなばの国」も おかしの国の名前で、今の 鳥取県のあたりだと 考えられているよ。「いずもの国」（今の島根県）と 「いなばの国」（今の鳥取県）は となりどうしなんだ。



なぜ いなばの国へ おかったのかというと、
兄さんたちが きれいな おひめさまを およめにもらおうと 考えたから
だね。

つまり、おひめさまに けっこんを もうしこむために いなばの国へ た
びに出かけたんだ。

兄さんたちは、たびの にもつを オオクニヌシに かつがせたよ。
八十人もの にもつは とてもおもいだろうに、オオクニヌシ 一人に も
たせるなんて この場めんでも 兄さんたちは オオクニヌシに いじわる
をしているね。

にもつがない 兄さんたちは、オオクニヌシをおいて どんどん先に行った
よ。

すると、けたのみさきで うさぎに会ったね。

「けたのみさき」は 今の 鳥取県の 海の近くだよ。
もうすこし ぐたいてきに しょうかいすると 「白兔海岸」という 海ぞ
いで、ここがまさに「いなばの白うさぎ」の お話のぶたいだと 考えられ
ているよ。

みさきとは、となりが すぐ海の りくちのはしっこ のことだよ。

どんな うさぎかということ、「赤はだか」「たおれていて」「毛をすっかり
むしりとられて、ふるえている」うさぎだね。
大けがをおっていて、とても いたい思いを していることが そうぞうで
きるね。

兄さんたちは うさぎに アドバイスをしたよ。

兄さんたちが うさぎに アドバイスしたこと

- ・海に入って しお水を あびること
- ・つめたい風に 当たること



ところが、なんと このアドバイスは うそのアドバイスだったんだ。
つまり けががなおる アドバイスではなく、けがが もっと ひどくなる
ような ほうほうを わざと教えたんだ。

なぜ 兄さんたちが わざと うそのアドバイスを 教えたかという、う
さぎのことを からかってやろうと 思ったからだね。

「自分が一番すぐれている」「あいてに かつことがえらい」と思っている
兄さんたちだから、たおれて 弱っているうさぎは、かちがないと 思った
んじゃないかな。

たおれている うさぎを見て 「おもしろいうさぎ」というなんて、このセ
リフからも うさぎのことを バカにしていることが わかるね。
いのちを だいじにせず、うさぎを どうでもいいおもちゃのように 思っ
ているよね。

うさぎは よろこんで 海に入ったよ。
なぜ よろこんだかという、 「しんせつな かみさまが いいことを 教
えてくれた。これで けががなおるぞ！」と ほっとしたり、きぼうを も
ったりしたんだね。

ところが しお水は 体中にしみて、風は ひふを やぶいたね。
「ひふをやぶいた」とは、風がふくたびに しお水が かわいて ますます
ひふが やぶれたということじゃないかな。

兄さんたちの アドバイスのとおりにしたら、うさぎのけがは もっとひど
く、もっと いたくなってしまうんだね。

兄さんたちの はんのうは お話の中に 書いていないけれど、「うさぎ
め、まんまとだまされたな」「なんて バカなうさぎだ」などと、ゲラゲラ
わらっていたかも しれないね。



だい三の 場めん うさぎが ないているりゆうを 話す

だい三の 場めんは、「わたしは、おきのしまに すんでいました。」から「とてもがまんができません。」まで。

【場しょ】おきのしま → けたのみさきへ

【登場人物】うさぎ・わに

【ないよう】うさぎは、オオクニヌシに わにをだまして かみつかれたことや かみさまに 教えてもらったとおりにすると もっとけがが ひどくなったことを 話したよ。

だい三の 場めんでは、うさぎが オオクニヌシに、どうして ないているのかを、かこにおきたできごとを じゅんばんに せつめいしている 場めんだね。

うさぎは おきのしまから けたのみさき に行きたいと思ったね。

くまごろう

くまごろう

「おきのしま」の場しょは、「沖合の島しま」つまり、海にうかんだ島 もしくは「隠岐の島」という 今の 島根県の近くの 海にうかんだ島のことではないか と言われているよ。

でも うさぎは およげないから よいほうほうがないか 考えたね。

「よいほうほう」とは、海をおよがずに けたのみさきまで 行くことができるほうほうのことだね。

そこで うさぎが 思いついたのが、わにを りようすることだったんだ。

わにの正体は さめのことだよ。



つまり、たくさんのに（さめ）を おきのしまから けたのみさきまで いちれつに ならばせて はしを作り、その上を 自分が とおろうとしたんだ。

どうにかして かにを いちれつに ならばせたい うさぎは、けたのみさきに わたりたいことは 言わずに「うさぎとかにの数を くらべよう」「けたのみさきまで ならんでくれたら わたしが かにさんの せなかの上をとんで 数をかぞえよう」と かにに うそのていあんをしたよ。

すると、かにには さんせいして うさぎの言うとおりに けたのみさきまで 一れつに ならんだよ。

「そりゃいい。」「なるほど、うさぎさんは かしこい。」という セリフからも かにが うさぎのていあんに さんせいしていることが わかるね。

きっと かにたちは「数くらべなんて おもしろそう！」「自分たちの方が 多いさ！」と 思ったのかのしれないね。

ところが、あと一歩で けたのみさきに とうちゃくするとき、うさぎはうれしくなって、つい「きみたち、だまされたね。」と言ったんだ。

きっと 「わーい！ついに けたのみさきまで 来れたぞ！」「かにたちが だまされてくれて 作せんさいこうだ！」という 気もちだったんじゃないかな。

自分の作せんが あまりにも うまくいったから「きみたち、だまされたね。」なんて 言ったら かにが どう思うか ふかく考えもせず 言ってしまったんだね。

すると かにには おこって うさぎにかみついたよ。

うさぎの毛は すっかりむしりとられ、赤はだかに なってしまったね。

きっと かにたちは 「ひどい！よくもだましたな。」「ぜったいにゆるさないぞ。」という 気もちだったよね。



そこへ、だい二の場めんのとおり、かみさまから アドバイスをもらったけれど、ますますいたくなるばかりだったという わけなんだ。

「かみさま」とは、オオクニヌシの 兄さんたちのことだね。

だい四の 場めん オオクニヌシが うさぎを たすける

だい四の 場めんは、「うさぎの話を聞くと」から「世につたわるようになりました。」まで。

【登場人物】 オオクニヌシ・うさぎ

【ないよう】 オオクニヌシは、うさぎのけががなおる アドバイスをしたよ。

オオクニヌシが いちばんすぐれていると 世につたわったよ。

オオクニヌシは 「おお、かわいそうに。」と言ったよ。

きっと 「とてもいたいだろうな」「兄さんたちが うそのアドバイスをしたなんて ひどいな。ごめんね。」「早くたすけてあげたい」という 気持ちだったんじゃないかな。

そして うさぎに アドバイスを したよ。

- 1 すぐ、川の水でよくあらうこと
- 2 がまのほを とって、まきちらし、ねころがること

海の水は しおが 入っていて しょっぱいけれど、川の水は ほとんど しおが ふくまれていないんだ。

だから、川の水で よくあらうというのは、からだに しみこんだ しおを あらいながす といういみだね。



「がまのほ」とは ソーセージににている 茶色の 細長い ぼうのような 花がさく しょくぶつだよ。

じつは がまの かふん（花の中に 入っている 小さなつぶ）は むかし から ちを とめたり、いたみをおさえたり、きずをなおしたりする こう かがあると されていたよ。

だから、がまのほを まきちらし、ねころがるとは、がまのかふんを から だに ぬるという アドバイスだったんじゃないかと 考えられているよ。

うさぎが オオクニヌシに 言われたとおりにすると、本当にまっ白い、ふわふわの毛の 白うさぎに もどったよ。

オオクニヌシのおかげで うさぎのけがは すっかりよくなったんだね。

それからというもの、「オオクニヌシこそ、八十人の兄弟の中で いちばん すぐれた方だ。」と、世に つたわるようになったよ。

人と きそい合ったり、くらべたりせず、兄さんたちから いじわるをされて たいへんな じょうきょうでも、こまっているうさぎを たすけたオオクニヌシの やさしさや すばらしさは まわりの人からの しんらいをえて みとめられていったんだね。

「いなばの白うさぎ」教訓（きょうくん）

さいごに、「いなばの白うさぎ」を 読んだり 聞いたり した人たちが このお話から 学んでいること（教訓）を しょうかいするよ。

それは、「わるいことをすれば 自分にも わるいことが かえってくる、いいことをすれば 自分にも いいことや しあわせなことが めぐってくる」ということだよ。



むずかしい 言葉でいうと 「因果応報（いんがおうほう）」ともいうよ。

たとえば、わにを だますという よくないことをした うさぎは、わににかわを はがされてしまったね。

オオクニヌシや うさぎに いじわるをしていた 兄さんたちは すぐれている人として みとめられなかったね。

はんたいに、自分も たいへんな思いをしながら 大きなもつを はこんでいる中でも こまっているうさぎの話を 聞いたり、うさぎのためになる アドバイスをしたりした オオクニヌシは すぐれている人だと 世の中に みとめてもらうことができたね。

「わるいことをすれば 自分にも わるいことが かえってくる、いいことをすれば 自分にも いいことや しあわせなことが めぐってくる」という考えは、ふだんの 生活の中でも、心の中に おぼえておきたいね。

「いなばの白うさぎ」意味調べ

ことば	いみ
いずもの国	いまのしまねけん。神さまのおはなしのぶたいになつたくに
おさめる	リーダーになって、その国をまとめること
ふさわしい	あるものが、あるものにぴったり つりあうこと。 ※「自分こそ、国をおさめるのにふさわしい」→「自分は国のリーダーになって、その国をまとめるのにぴったりだ」
きそい合う	おたがいにまけないようにきょうそうをすること
すえっ子	きょうだいの中で一ばんあとにうまれた子のこと
このまない	「すきではない」ということ
いくじなし	ものごとをやりとげる気もちの力がなくないこと
言いつける	めいれいすること
こきつかう	あいての気もちをかんがえずにひどく使う(めいれいをする)こと
いなばの国	いまのとっとりけん
つめる	すきまがないように入れること



ことば	いみ
かつぐ	ものを もち上げて かたに のせて ささえること
みがる	からだ が らくに うごかせること
けたのみさき	とっとりけんにある 海に ちかい みさきの なまえ
赤はだか	まったくの はだかの こと(まるはだか)
むしりとる	引きちぎって とること・むりやる とること
からかう	じょうだんや うそを言って、人を こまらせること
足を止める	たちどまること
しみる	いたいように かんじること
あまりのいたさ	いたみが とても つよいこと
なみだをぬぐう	なみだを ふきとること
おきのしま	しまねけんの 北にある、小さなしまじま
わに	「いなばの白うさぎ」のおはなしの 中では、「さめ」のことを「わに」というよ。
思いつく	かんがえが ころに うかぶこと
かしこい	あたまが よいこと
だまされる	うそを しんじること
そのとたん	そのすぐあと
あつというまに	いっしゅんの あいだに
すっかり	ぜんぶ
通りかかる	ちょうど そのばを とおること
みずべ	川や 池などに ちかいところ
がまのほ	「がま」という しょくぶつの タネの わたげが たくさん つまっていた、ソーセージのような かたちを している。さわると たくさんの わたげが 出てくる。がまのほの かふんには キズを なおす 力がある。
まきちらす	まわり いっぱいに ひろがるように まくこと
ねころがる	ごろりと よこに なること
元どおり	元の かたちや すがたに もどること
ていねい	心をこめて いっしょうけんめい すること
あらいながす	水などで よごれなどを ながして きれいに すること
すぐれた	ほかよりも よいこと
世につたわる	たくさんの 人びとが すること

